

TIJ 日本語教育研究会通信

No.50 2013.1.19 発行

発行: TIJ日本語教育研究会事務局
東京都葛飾区新小岩1-17-10
Tel:03(5607)4100 / Fax:03(5607)4102
E-mail tij@tij.ne.jp
TIJ ホームページ <http://www.tij.ne.jp>



明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いたします。今年の冬は例年より寒く、雪の多い日本海側の方たちは大変だろうなと思っていたら、新年早々、関東地方が大雪に見舞われ、雪に弱い東京がまた露呈されました。皆様おけがはなかったでしょうか。

今年も2月11日建国記念日にTIJ文化交流祭を行います。お客様向けの発表は10時半から始まります。発表終了後は交流会を計画しています。皆様お誘い合わせの上、ぜひいらしてください。詳しい内容は本号に掲載いたしましたので、ご覧ください。

TIJでは、一昨年より都内のある大学から依頼され、交換留学生と正規留学生の日本語授業を行っています。本号でその授業の様子を報告させていただきます。

また、ベトナムの企業で日本語研修を担当された方に、その研修及びベトナムの日本語教育について興味深いご報告を書いていただきましたので、ご覧ください。

昨年の10月7日に開催された葛飾区国際交流祭りのスピーチ大会にTIJの中級学生が二人参加いたしましたので、その原稿を掲載いたします。

最後に2012年度のTIJの活動の写真を「TIJだより」として掲載いたしました。

【本号の内容】

1. TIJ文化交流祭のご招待
2. 大学での日本語授業
3. ベトナム企業での日本語研修
4. 葛飾区国際交流祭りスピーチ大会 参加スピーチ
5. TIJだより

TIJ 文化交流祭りのご招待

今年も 2 月 11 日に TIJ 文化交流祭りを開きます。上級学生たちのプレゼンテーション、寸劇、中国の行事のポスター発表、中国の遊びの紹介などがあります。また発表後には、来ていただいた方たちと TIJ の学生たちとの交流会も計画しています。学生たちが 2 年間、または 1 年半、T I J で学んできたことを発表する機会です。皆様お誘い合わせの上、ぜひいらっしゃってください。お待ちしております。

期日 2013 年 2 月 11 日（月曜日、建国記念日）

時間 9：30－10：30 在校生向け発表

10：30－11：30 お客様向け発表

11：30－12：30 交流会

場所 T I J 東京日本語研修所内（葛飾区新小岩 1－17－10）

大学での日本語教育

開講！日本語講座

都内の大学からの依頼により、2011 年 10 月から留学生を対象に日本語講座を受け持っています。週 2 回 4 コマの授業を講師 2 人で担当しています。

授業は中国の大学からの交換留学生と日本語学校を経て入学してきた正規学生に行っていますが、今回は交換留学生の様子をご紹介します。

当該大学は中国の 2 つの大学と交換留学制度を結んでおり、そのうちの 1 校 T 大学からは経済と日本語専攻の 3 年生が来ています。2011 年 10 月に来日した 4 人の学生は日本語能力試験 N1 合格、会話もほぼ「ペラペラ」です。開講前に公表したシラバスが…と若干焦りました。

さて、この T 大学生 4 人に日本語学習の動機を聞いてみると、日本文化に興味があつて自然に日本語を学んだ、両親の意向により中学のころから習い始めた、朝鮮族であるなど、特に変わったものではありませんでしたが、その習得度には驚かされました。日本語学校の「学力低下」を目の当たりにしている現在、大学 2 年間+α の学習でどうしてここまで上達したのか、ぜひとも探りたいと思いました。

授業は当初のシラバスを早めに終え、プレゼンテーションとニュースに重点を置いて進めていくことにしました。

プレゼンテーションは住宅事情や高齢化社会といった社会問題を、まず既存のデータを使って説明する練習をし、次に各自の切り口で同じ問題を論じてもらいました。感服したのは、情報の扱い方です。論と文の組み立てが上手い。インターネット等から様々な情報を引き出しそれを自分の文章に効果的に組み入れて、自身の論を作り上げていくのです。今でも彼らの文を読むと、声や口調が蘇ってきます。

もう一つ印象的だったのは、彼らの知的な真面目さです。NHK ラジオを用いたニュースの授業で、「就活落語」という特集－落語を通じて面接に重要なコミュニケーション力をつけてもらう－という取り組みを紹介しました。ニュースは噺家のインタビューが中心で、日本人でも若い人にはなじみのない言い回しも多く、彼らには聞きづらいものでしたが、興味津々で必死に聞き取ろうとしていました。そして、知識として知っていた落語を実際に耳にして、その歯切れの良さ、闊達な雰囲気が大いに魅力を感じたようで、気に入ったフレーズを何回も口にしたりしていました。このように、毎回幅広いジャンルのニュースを聞いたことによって聴解力もつき、語彙も増えた、と講師側は満足していたのですが…。半年の講座終了時のコメントは「せっかく日本に来たのだからもっと生の材料に触れたかった」。彼らの意識の高さに頬を打たれた気分です。

2013年度から日本語講座は必修科目となり、正規学生が主要対象となります。2年間日本語学校で学んできた留学生に、さらに1年間の日本語履修が課されるわけです。

ディベートやプレゼンテーションで論理的思考や発話能力を高めると同時に、新聞ニュースで社会問題、時事問題の知識を積んでいきたい。発話、記述、思考等をアカデミックな場にふさわしい表現で行えるレベルにまで引き上げられれば、日本語講座開講の意義は大いにあると確信しています。

北内直子 (TIJ)

以下に T 大学学生の作文とプレゼンテーションをご紹介します。

高齢化社会について

政府の 2011 年版高齢化社会白書によると、総人口に占める 65 歳以上人口の割合（高齢化率）は 23.1%（前年 22.7%）です。そして、この割合は今後も伸びていくだろうと予想されます。平成 67（2055）年には、2.5 人に 1 人が 65 歳以上、つまり 4 人に 1 人が 75 歳以上ということになります。

白書から見ると、日本の人口高齢化は避けられない問題です。高齢化は日本の経済にも様々な影響をあたえていくだろうと思います。なかで一番大きな問題は年金問題です。高齢化に伴い増していく負担を誰が、どのように引き受けていけばよいか、また、高齢化社会に向けて今の年金の財政はどうなっているのか、今後どうならなければいけないのか、この問題は最近良く討論されています。私もこれを少し調べていきたいと思って、今日は皆さんに発表させていただきます。

まず、日本の年金制度を少し紹介しようと思います。賦課方式です。というのは、労働者が支払う保険料を積み立てず、そのときの退職者に年金を支給するという年金方式です。この方式は、高度経済成長が続き、人口の構造が比較的若かったころは多くの人々から褒められました。

しかし、近年、日本経済の不景気、少子化が急速に進み、高齢化が騒がれている現在となってから、この賦課方式の年金では年金財政が破綻してしまうのではないかと騒がれるようになってきました。賦課方式のもとで公的年金を維持しようとするとなると、保険

料を段階的に引き上げていかなければならなくなってしまう。高齢化時代の数少ない勤労者が、同時代の多数の高齢者の年金給付を賄うこととなり、勤労者の年金純負担が極端に高くなってしまいます。たとえば将来の年金保険料を現在の2倍に引き上げる必要がある、というふうになっていってしまうかもしれない。給付水準が世代間で同一であるにもかかわらず保険料の負担に2倍の差が生じるのは明らかに不公平です。

それに、基礎年金の財源については、保険料、積立金の収入の他に、国庫負担が行われています。現在、年金の国庫負担は全国民共通の基礎年金の3分の1になります。でも、高齢化の進展に伴い、将来的に2分の1に引き上げることが政府の最終方針となりました。2025年度には8.2兆円と倍増して、つまり4兆円以上巨額な金が必要です。こんな巨額な費用を税金という形で国庫負担させることが議論されています。

年金について深刻なのは、高齢化社会日本が緊急に対処しなければならない問題だということです。中国も同じような背景になって、高齢化率が高くなりつつあります。日本も中国も、高齢化の年金問題がうまく解決するかどうかは国家の将来の社会安定と経済発展につながっています。

「お元気ですか」なんかいわない ～エナージェティックジャパンとの付き合い記～

僕は去年九月中旬に日本に来た。ちょうど大震災から六ヶ月と五日。日本に来る前、どんな気持ちを持っていくべきかとちょっと迷っていた。従来から問題となった経済の不況と少子高齢化である上に、今年は東日本大震災が発生し津波に見舞われて、原発事故が起きて、引き続きひどい目に遭ってきた日本は、きっとボロボロだと、その災いを注目してきた僕はそう思っていた。だから、「お元気ですか」という見舞いっぽい気持ちで日本と付き合い合っていたほうがよいだろうと、僕は日本に来た。

だが、羽田空港を出たとたん、僕は驚いた。涼しく秋めいてくると思ったが、太陽は思った以上にまぶしく、空は思った以上に青く、草木は思った以上に生き茂り、まったく南国情緒あふれる国であったのが、印象に残った。「元気だな」と思わせるほどだった。このように日本と付き合い始めた僕は、エナージェティックジャパンはまだまだこれからだということ、だんだん発見していくことになる。

1. 「萌えは第一の生産力」 ～萌えで世界へ発信している日本～

僕は日本に来る前、萌えという言葉を知っていた。萌えは日本ではやっている言葉であるとはいえ、漢字が通じるため、今、中国の若者も「可愛い」とか「かっこいい」の代わりに、「萌え」をよく使っている。また、萌えはすでに文化現象となったのを、雑誌などがよく指摘している。だが、いったい萌えは日本でどんな存在なのかと、日本に来て始めてわかった。

去年11月、僕は一度秋葉原に行った。行く前、秋葉原に対する印象は、「世界有数の電

気街である」に限られていた。だが、行ったら、ぜんぜんそういう感じではない。商店街の雰囲気は薄くて、猫耳カチューシャと猫爪グローブをつけてセーラー服やメイド服を着た連中が活躍している。街中は完全に AKB48 が埋め尽くしていた。電気屋より、明らかに AKB のカフェショップのほうが人気がある。悪い天気にもかかわらず、多くの人が並び待っていた。秋葉原は、AKB をはじめ、萌え文化の根拠地になったようにしか見えない。

浜銀総合研究所の調査によると、2003 年度のコミック・ゲーム・映像などの「萌え」関連商品の市場規模は 888 億円に達したそうだ。今、萌え文化はその経済的成長性で注目される。また、萌え文化はすでに、秋葉原を飛び出て、日本人の生活にも浸透中なのだ。今日本では、「萌え法律研究所」や「萌え経済研究所」など多くの関連機関がある。これらの機関は、漫画や演劇などの動的な方法によって、人々に関連知識を普及し、複雑で学びづらい専門概念を理解しやすく伝えている。日本の商業界で、人々の「萌えポイント」を探ることは、基本原則となっている。しかし、僕が見る限り、萌え文化はそれ以外は、日常生活で一種のスパイス的役割を果たしている。本来、人間は可愛いものが好きで、美しいものに憧れるものだ。「萌え」でストレスを軽減し、味気なく苦しい出来事も一笑に付すことが可能となる。特に、今の日本は、大震災後の回復期に置かれ、落ち込んだ人たちに元気を届けるには、萌えは一つのメディアであると考ええる。東日本大震災後、日本のあるゲーム企業が萌えキャラを発表した。可愛い女の子が頭の上に炭を載せ、首都圏の人々に節電を呼び掛けるといったものだ。この「萌えキャラ」は、震災後の重苦しい雰囲気を和らげ、その苦痛をしばし忘れさせてくれると人々に好評だった。僕は日本に来て、元気を感じているのは、萌えにいっぱい触れているためであろうと思う。つまり、萌えはすでに日本式エナジーに進化したと言えるだろう。

2. 腹福より眼福、眼福より心福 ～美感到にこだわる日本人～

そもそも萌えというのは、美の一種である。日本人の追い続ける美感到は、萌えを含め、さまざまな表現があり、生活を貫いている。以前から、日本料理は口で食べはせず、目で食べると聞いていた。お弁当を例にとつていうと、もともと弁当というのは携帯できるようにした食糧のうち、食事に相当するものである。今は、お母さんが子供に喜んでもらうために、工夫を凝らし、中身を漫画、アニメ等のキャラクターの形に模した、「キャラ弁当」と呼ばれる可愛いお弁当がはやっていて、すでに「弁当文化」となったようだ。今、中国や韓国、欧米でも注目を集めるという。さすがにきれいなので、見るだけで食欲全開だ。

前はお弁当について、キャラ弁当のような家庭手作り弁当しか知らなかった。だが、日本に来てから、市販される弁当も、創意工夫を凝らしていることを発見した。

僕は日本に来たばかりのとき、よくコンビニなどで弁当を買っていた。毎回異なる弁当を買って、その弁当の食材の組み合わせにも感心している。肉と野菜以外は、惣菜、プチトマト、かぼちゃの煮つけ、玉子焼きなどもよく使われる。特に、タコの形をしたウィナーの使い方は深く印象に残っていた。それぞれ特有の色を持った食材を使うと、栄養バランスが取れるし、色とりどりで目の保養も得られる。お店はそこまでやってくれて、本当にありがたく思う。

そう考えれば、僕は、むしろ和食は心で味わうものだといったほうが良いと思う。きれいな料理を見た私たちは、素直に心から喜ぶ。そして、可愛い弁当を作った母親の愛とか、華やかな弁当を用意したお店の人の優しさとか、心をこめてまじめにお弁当を作ってくれる人の気持ちもきれいな弁当で伝わってくる。そんな気持ちを私たちが受信し、心の満足の上に、食事はもっと楽しいものになると思う。

日本料理は淡いと、よく中国人が言っている。しかし、やはり日本料理がおいしいと思われる。なぜなら、種類が豊富な食材や調味料は当然の原因になるけれども、注がれた心で料理がいつそうおいしくなるからだ。精緻さや正確さを追求する日本人は、相手から喜んでもらうために、自分の仕事に対して、おろそかにせず心をそそぎ、完璧になるまで努力する。そういう職人精神は、もう日本人の国民性にとけこみ、日本企業の世界中の成功の一因となると考える。

3. 今時の商戦は意匠の戦い ～デザインは金儲け知恵～

去年の12月30日、僕は浜崎あゆみのカウントダウンライブに行った。8年前からあゆの大ファンで、彼女のライブに行くのは僕の夢である。今度はすばらしいライブを楽しめると同時に、日本のコンサート事情も少し覗くことができた。震災後、日本経済不況、民衆の購買力低下などをよく耳にしている。しかし、僕がコンサートに行き、そういう様子は見えなかった。商品を買うために、数百メートルの長蛇の列になっていた。

いま、コンサート関連商品市場が活況を呈しているという。グッズ販売の顧客単価が年々上昇している。グッズの価格は普通の商品よりも高価であるが、なぜ売れるのか。

それは、デザインのためだと思う。普通のTシャツにアイドルのサインとか写真をつければ高くなる。それが、グッズというものだ。浜崎あゆみを例にすれば、彼女のグッズは、毎回コンサートのテーマとあわせてデザインされる。すべての商品には同じロゴがあり、スタイルも一緒。また、よくヒョウ柄など流行のエレメントを使う。だから売れている。

技術が急速に進化し普及している今、高品質だけではライバルと伯仲するだけである。デザイン、マーケティング戦略など総合的評価が勝負を分ける。つまり、今時の商戦は、すでにデザインの戦になっている。

だから、いま、売り手は顧客の心を奪えるデザインに工夫を凝らすようになった。僕は日本に来て、そういう優れた商品デザインを、数え切れぬほど見てきた。

いま、日本企業は、全世界で評判を受けている。特に、中国人は、金儲けのうまい日本人との印象を持っている。日本企業は世界進出の初期、高品質と高精度を誇るプロダクトで商戦を勝っていた。しかし、いま、MADE IN JAPAN 製品はデザインで人気を集めている。発展途上国企業が世界中で立ち上がってくる今、日本商品はデザインで付加価値をあげるしかないのではないか。

ベトナム企業での日本語研修

私は 2011 年 9 月から 12 月までベトナム・ホーチミンの FPT ソフトウェアという IT 企業の企業内日本語コースの「Br.SE アドバンス・コース」(Br.SE : ブリッジ SE…日本の顧客と日本語を介してベトナム人開発技術者の技術的解釈、通訳、連絡をおこなうベトナム人技術者)で講師を務めてきました。(私自身も IT 会社出身です)

ベトナムではホーチミン、ハノイには多くの日本語学校がありますし、ほとんどの大学でも日本語学科、専攻があるようです。ご存知のようにベトナムは現在経済発展がめざましく、おびただしい数の外国企業がベトナムに進出しています。日本企業もチャイナタウンということで日ましにその数が多くなっています。それに反し日本語学校は頭打ちで施設をそっくりそのまま英語学校に変わってしまったところもあります。また、昨今の韓国勢の海外進出も目をみはるばかりです。著作権、放映権など意図的に細かいことを言わずに、どんどん使ってください、見てくださいとばかりに TV 番組でも韓流ドラマ、K-POP が氾濫しています。大学でも韓国留学フェアなどの催しが人気を集めています。対日感情の非常に良いベトナムですが、日本の存在感はあまり感じられない気がします、現地滞在中の日本人も同じようにもどかしさを感じている方が多いようです。もともとベトナム戦争末期には韓国軍が米軍とともに実戦部隊に多く配備された関係から韓国人の残留者、滞在者は多いのです。ホーチミンには約 1 万人の日本人がいるといわれますが、韓国人は 10 万人いると言われていました。

今回私が赴いたのは FPT グループに所属するベトナムでは一番大きなソフトウェア開発会社で年間売り上げの 50%以上を日本から得ています。したがって、日本語のできる技術者が多ければ多いほど日本から仕事が取れるので、技術者の日本語教育に非常に力を入れていました。社内で日本語ブリッジ SE (上記参照)を募集し 10 名~15 名を 1 クラスとして 1 年かけて N3 を目指します。(このコースを卒業した後 N2 を受験しますが 1~2 名しか合格しません)朝から夕方 5 時ころまで、市中の日本語学校と契約し、教室、カリキュラム、先生などをその日本語学校に委託しています。それに加え日本の大学に留学経験のある日本語研修担当マネージャーが自ら実践的な IT 関係の用語を使い、実践場面を設定した会話、説明訓練、電話会議などの実務訓練を行っています。

その実務訓練の一環として、私は日本の会社という「新入社員教育」に当たる部分を日本語でおこないました。「社会人マナー」「職場でのコミュニケーション」「自己紹介」「プレゼンの基礎」「面接のポイント」「履歴書、経歴書の書き方」…すべて日本企業で働く、日本企業と仕事をするベトナム人向けに、私が日本で行っていた企業内研修の内容をもとにアレンジしました。いわゆる日本語そのものの授業はその日本語学校の日本人、ベトナム人の先生が行っています。

ここで FPT 社の日本語研修担当マネージャーとそのカリキュラム、コースの進め方でよくぶつかりました。彼は、1 年間も給料をもらって日本語を勉強するのだから…といて多くの事を詰込み、宿題もたくさん出し生徒はみな消化不良を起こしていました。生徒はみなベトナム人特有の「人のよさそうな、ニコニコ顔で、頑張ります!」とは言います

が本心どうなのかよくわかりません。先生、上司に食ってかかるような生徒は皆無です。分かっているのか、わからないのか、できないのか、やりたくないのか…反応がわからないのです。また生徒は全員、授業のあいだ中ノートパソコンを開いていて、パソコンでメモを取ったり、辞書を引いたり、わからないことをインターネットで調べています。これがカチャカチャとうるさいのと、こちらの話を集約して聞いていないので即刻辞めさせるよう研修担当マネージャーに言いましたが、パソコンを使わなければとてもこれだけの内容の高いことはできない、と「授業中のパソコン使用禁止」には断固として反対されました。日本語がある程度身に付いてからにしないと、日本語の基礎的な力が見つからない…！と言いつつ最後には「私が責任者です、私が決めます、参考意見ありがとうございます」と口は丁寧でしたが「ウルサイ！あなたは言われた通りにしてください！」と聞こえました。

ベトナムでは、というよりアジアでは担当者、責任者は予算、人事、仕事の進め方…これらのことはなんでも「自分が担当者」という意識がはっきりしていて、知っているかどうか、わかっているかどうかとは関係なく「その人がすべてを決めます」。周りの人もこれに対して何も言いません。しいて言えば上司、上層部が「違う、こうしてほしい」と修正を要求することがありますが、この時は正反対でアッサリとそれに従います。

社会の仕組みが違い、価値観、気候も違う、欧米式近代社会の経験がないところで日本語でビジネス関連のことを教える…なかなか根気のいることです。まして自分たちが学習している時間しか日本語に接することはない環境での学習は大変です。せめて日本の TV 番組、J-POP が身近にあれば少しは日本語学習にも役立つと思いますが…。

ホーチミンには多くの日本人日本語教師がいますが 2 年未満で帰る人が多く、ベテランが少なく、カリキュラム作成、ベトナム語（母語）を意識した授業の開発などとても手が回らず旧来の方法での日本語学習から抜け出せない、と言われていています。JICA も国際交流基金も活動していますが、日本としての有益な活動になっているのか多少とも不安を覚える状況でした。

とはいえ、彼らは今後の日本社会にとって重要なパートナーになっていくでしょう。コツコツと地道に経験を積み重ねていくことが得意な日本と、若く明るい、多少のラフなところはあっても細かいことを気にせず前進していくベトナムとの関係はますます強いものになるでしょう。日本語学習を通してお役にたつならば、更に老骨に鞭打つ覚悟です。

All Flowers of tomorrow are in the Seeds of today !

以上

2013 年 1 月 9 日 今福民生

葛飾区国際交流祭り参加スピーチ

私が日本に来て感じたこと

姜紅（じゃんこう）

青い空に、白い雲があります。町には、グリーンがあふれています。空気も新鮮です。これは、日本の景色です。毎朝起きてすぐに、窓の前に立って、外を見ながら呼吸をすると、気分がよくなって、元気が出ます。私は、今、日本で勉強している留学生です。

日本の町はきれいで、静かだと思います。道のまわりに緑も多いです。私はよく、友達と一緒に公園へ行って、散歩をします。公園には、色々な木があって、花も咲いています。空気もきれいです。子供たちが、川の中で遊んでいます。川のそばでは、おじいさん、おばあさんがベンチに座って、楽しそうに話しています。きれいな公園の景色は、まるで絵のようです。日本は住みやすい国だと思います。

私は、国で14年間、看護師をしていました。日本のリハビリの技術を勉強するために、日本へ来ました。今は、新小岩の日本語学校で、日本語を勉強しています。日本語は難しいですけど、学校の先生はとても親切で、やさしいです。授業のとき、先生は、私たちの友達のように。難しい日本語も、楽しく教えてくださいますので、勉強がおもしろくなります。「リハビリの勉強をする」という夢をかなえる自信もつきました。

日本は緑が多くて、景色がきれいです。日本人も親切で、やさしいです。私は、日本に長く住みたいと思っています。そのために、これからも、日本語の勉強をしっかり頑張ろうと思っています。ありがとうございました。

劉政錯（りゅうせいかい）

皆さん、こんにちは。私は、劉政錯と申します。日本に来て、もう半年です。半年の間に、いろいろな日本人に会いました。失敗してしまったこともありますし、不思議だと思ったこともあります。今日は、それを、お話ししたいと思います。

日本に来たばかりの頃、初めての友達が、「野球の試合があるんですが、一緒に行きませんか。」と誘ってくれました。野球のルールをよく知らなかったのので、私は、「すみません。野球はちょっと・・・。」と言いました。友達は、「そうですか。劉さんは野球が嫌いですか。」とか、「野球場は遠いですし、暑いですしね。」とか、とても残念そうに言いました。私が全然思っていないことを言われて、はずかしくなって、最後には、「ぜひ、行きましょう。」と言ってしまいました。彼はうれしそうでしたが、私は野球のルールを知らないのので、試合は全然わかりませんでした。また彼に誘われたら、「すみません。野球はちょっと・・・。ルールを知りませんので。」とちゃんと具体的な理由を話そうと思っています。

不思議に思っていることは、日本人の「へえ～」です。日本人は、長～い「へえ～」が好きなようです。ある日、私は姉と一緒に、レストランへしゃぶしゃぶを食べに行きました。そこで、とても困りました。食事をしている間、となりの席の人たちが、とても大～きな声で、「へえ～」と何度も言いました。一分間に五回ぐらいです！テレビでも、「へえ～」と言うのを、よく聞きます。日本語学校で、「へえ～」は、驚いたときに使うと習いました。どうして、そんなに簡単に、びっくりしますか。話は、本当に、そんなに面白いで

しょうか。私には、まだ分かりません。もっと日本語が上手になったら、わかるかもしれません。日本語は難しいですが、これからも頑張って勉強して、もっと日本人のことを知りたいと思います。 ありがとうございました。

TIJだより

4月4日入学式



所長の挨拶



新小岩公園で記念撮影

2012年4月生の入学式。新小岩公園には桜が咲いていました。

4月27日校外学習



科学博物館「発見の森」で



マンモスの骨の下で

校外学習で、国立科学博物館を見学に行きました。

5月25日スポーツ大会



新入生も頑張ったね



全員で記念撮影
前で寝っ転がってるのは誰？

クラス別対抗では、新入生の初級クラスが優勝しました。

10月18日校外学習



観覧車に乗りたかった！



水族園の入口で

みんな揃って葛西臨海公園へ行きました。

12月14日クリスマス会



司会の3人お疲れ様でした



皆さん、笑顔がいいですね



初級クラスのダンス、何とも可愛かったです

地区センターのホールでクリスマス会をやりました。各クラスと先生たちが出し物を披露し、楽しく過ごしました。